（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	はるにれ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日	～	令和7年12月20日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	5人	（回答者数）	4人
○従業者評価実施期間	令和8年1月14日	～	令和8年1月21日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6人	（回答者数）	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	＜発達支援＞こどもや保護者のニーズに合わせ、個別プログラムと、集団プログラムを組み合わせて支援をしている。	こどもの発達特性や強みをみながら、個別にプログラムを作成し、できることやわかることが増え、自尊感情が高まるよう関わっている。集団プログラムでは、こどものやりたいことを取り入れ、自己選択できるよう配慮している。	専門性をさらに高めるためのスキルアップに努めることや、並行利用の保育所等との情報連携に定期的に取り組む。
2	＜家族支援＞定期的に保護者と面談し、こどもの状況を確認しながら、こどもの発達特性の理解や、家庭での対応方法についての助言、さらに、きょうだい児へのカウンセリングなど、家族支援に取り組んでいる。	まずは、こどもが家庭で安定して過ごせるように、保護者のメンタルケアも含めて、ご家族への寄り添い支援を心掛けている。	ニーズに応じて、家族療法カウンセリングや、ペアレントプログラムに取り組んでいきたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会が少ない。	幼児期は、事業所に通うことへの抵抗がある方もおられることや、個別支援に通所される方は、通所出来る日が限られているため、交流を設定することが難しい。	交流のニーズを把握し、希望があれば、気軽に集まって、お喋りができる場を設定していく。
2	地域との交流が少ない。	地域の行事や活動などの情報収集をあまりしていなかった。	地域の資源を活用するため、三保まちづくりセンターや、リハビリテーションカレッジの活動情報の収集、三保保育園や放課後児童クラブ、湊浦自治会等との交流を企画する。
3			